

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO 中学高校生の日本語支援を考える会

1. 事業の趣旨・目的

地域の外国人に日本語学習や生活の支援を行っている人材が、多文化共生を念頭においた今日的課題に対応すべく、多様な人的リソースをコーディネートする方法や、様々な組織・機関と連携協働する知識や技術を学んで、実践していける人材を養成する。

多角的な視点が持てるコーディネーター養成を目的とし、研究者からは専門的な知識や子どもの自己認識を促すための母語保持の重要性を学ぶほか、国際理解教育のファシリテータ、自治体の相談窓口の通訳として多彩な働きをする難民出身者からも、それぞれの立場でのコーディネートの必要と実践を学んだり、災害時における支援の基本姿勢についても学んだりする。ワークショップも行う。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月9日	神奈川県民サ ポートセンター 8階コラボスタ ジオ	坂内泰子 丸谷 士都子 崔 英善 樋口万喜子 古屋恵子	・講座日程とシラバス ・受講者の条件の検討 ・受講生募集から開講ま でのスケジュール	講座日程とシラバスの内容確 認、受講生の募集方法と受講 条件の確認、開講までの予定と スタッフの役割分担の確認
9月18日	神奈川県民サ ポートセンター9 階	丸谷 士都子 樋口万喜子 古屋恵子	・講座の中間報告 ・今後の講座内容の確認 ・中島先生の講座に関し て ・修了要件の検討	・委員全員に送付済みの講座 内容およびアンケート集計結果 を基に受講者の反応が良好で あることを確認。 ・第6回、第11回、第12回の 講師に話していただきたいこと ・第10回の公開講座で、スムー ズに受付する工夫

				・修了証は去年同様に縦長の用紙を使用
1 月 15 日	神奈川県民サ ポートセンター	坂内泰子 丸谷 士都子 崔 英善 樋口万喜子 古屋恵子	・講座全体についての評 価 ・事業報告の方法と今後 の課題について ・経費確認	・受講者のアンケートをもとに講 座全体を振り返り、評価した。 ・アンケートから見られる今後 の研修のあり方を検討 ・経費報告



3. 講座の内容について

(1) 講座名 「外国人と地域をつなぐ日本語コーディネーター養成講座」

(2) 開催場所

ア 講義

かながわ県民センター

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 電話
045-312-1121(代)

YMCA 関内

〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町 1-7 電話 045-662-3721(代)
神奈川県立近代文学館

〒231-8458 神奈川県横浜市中区山手町 110 電話 045-622-6666(代)
地球市民かながわプラザ (あーすぷらざ)

〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ケ谷 1-2-1 電話 045-896-2121
(代)

在日本大韓民国民団神奈川県地方本部神奈川韓国会館7階

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-10-1 電話
045-662-3721(代)

イ 実習

かながわ県民センター

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 電話

(3) 学習目標

研究者から専門的な知識を学ぶだけでなく、地域でコーディネートを実践し、高い評価を得ているいくつかのNPO代表を講師として迎え、ワークショップを行い、実践的な力をつける研修を提供する。また、ブラジル人のバイリンガル教員、国際理解教育のファシリテータ、さらに自治体の相談窓口の通訳として多彩な働きをする難民出身者からも、それぞれの立場でのコーディネートの必要と実践を学び、多角的な視点を有する人材を養成すること。

(4) 使用した教材・リソース

「移民の子どもと学力」

「マルチリンガル教育への招待・言語資源としての外国人・日本人年少者」

「自分の仕事をつくる」

「イツ、イツ、イツ たりないよ」

「外国人をめぐる生活と医療 - 難民たちが地域で健康に過ごすために」

「ザ・マインド・マップ」

「プロ研修講師の教える技術」

(5) 受講者の募集方法

- ・「かながわ多文化子ども支援ML」、「kodomo-ml」、「Yokohamakokusai」などのメーリングリストで受講生募集のメールを流す。
- ・地域のセンターに受講生募集のチラシ(別紙参照)を置かせてもらう。
- ・ホームページに募集記事を載せ、ホームページからも応募可能にする。

(6) 受講者の総数 35 人

日本国 34人、大韓民国 1人

(7) 開催時間数(回数) 36 時間 (全 12 回)

講義 33 時間 (11 回)、実習 3 時間 (1 回)

(8) 参加対象者の要件

原則として日本語を2年以上教えている者。外国人相談窓口や職場で外国人の日本語学習などの相談を受けている者。学校で外国につながる子どもと接している者。日本語教育コーディネーター。

(9) 講座内容

回	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	8月7日	3時間	28人	かながわ県民センター	講義：地域の日本語コーディネーターの役割
②	8月21日	3時間	28人	YMCA 関内	講義：生活者のための日本語教材/地域で支える外国人の子どもの日本語教育
③	9月4日	3時間	24人	神奈川近代文学館	講義：コーディネーターに求められる知識と能力
④	9月18日	3時間	25人	かながわ県民センター	講義：国際協力の現場から考える多文化共生—受け入れ側の学び—
⑤	9月23日	3時間	20人	かながわ県民センター	見学：日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイダンス
⑥	10月2日	3時間	30人	かながわ県民センター	講義：「外国住民支援」から「みんなで支えあうまちづくり」へ
⑦	10月16日	3時間	24人	あーすぷらざ 研修室 A	講義：日系ブラジル人支援の現場から—統計に表れない現実—/バイリンガル教員のコーディネート 実践と課題—小学校と母語教室の実践から—
⑧	10月30日	3時間	24人	かながわ県民センター	講義：異文化間コミュニケーション—理論と実践—
⑨	11月13日	3時間	25人	かながわ県民センター	講義：異文化間コーディネーターが大切に思うこと—韓国の多文化共生の現状を踏まえて—/インドシナ難民の現状と課題—地域のコーディネーターに望むこと—
⑩	11月20日	3時間	24人	民団	公開講座：バイリンガル教育と母語支援
⑪	11月27日	3時間	21人	かながわ県民センター	講義：東日本大震災後に体験した様々な支援の形—コーディネーターとし

				ター	て気づいたこと—
⑫	12月11日	3時間	27人	かながわ 県民セン ター	講義：新しい市民社会を目指して—連 携と協働—/活動に学びを生かそう

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

●毎回、内容の深い講座でした。多文化共生社会という言葉に振り回されてきた、また周りを振り回した1年でしたが、この研修を受け、今後自分自身がその社会づくりの過程でどのように外国の方と向き合ったらいいか、自分自身の考えがあいまいなものから、少しはっきりした言葉で表現できるようなものになったと思います。この12回の研修を企画、準備して下さいました「NPO 中学高校生の日本語支援を考える会」のスタッフの方に感謝致します。ありがとうございました。

●日本語教室を中心に見たときに直面する課題について様々な角度からとり上げていただき、それぞれの専門家の存在も知ることができて有意義でした。コーディネーターとして、仮に専門家との接触をコーディネートするだけとしても独自の専門性が必要という認識に至りました。

●いろいろな方と話をすることで、情報交換ができた。現在も所属教室で多くの問題を抱え、仲間をつくり解決を目指している。その中に応用できる方策などのヒントが得られた。子供についての実態、情報はこれから役立てていきたい。

●様々な分野の方々のお話を伺うことができ大変勉強になりました。今までも自分の興味のある分野の講座を受けることはあったが、どうしても同じような内容に偏ることが多かったので、そういった意味でも、いろいろな分野の専門の方々のお話を聞くことは有意義でした。社会の流れや行政の役割、歴史的な変化など、マクロな視点を与えてくださったことは今後に大きくつながると思います。

●大変勉強させてもらった。多分野の視線で理解が深まった。これだけの講師を集めることも大変だったと思います。次回も同様の企画(進化した)を願う！

●日本語教師のかかわり方が講師、参加者それぞれ立場が異なっていて、グループワークをすることで自分の狭い思い込みや少ない知識が浮き彫りにされたり、逆に肉付けされたりしました。ありがとうございました。

●地域で活動していくためには日本語教育の知識だけあればいいのではないと痛感しました。これからは幅広い知識を身につけて支援していけたらいいと思いました。また、様々な活動をしている講座の参加者の方々のお話も勉強になり、参加してよかったと思いました。

●地域に密着した日本語教室やボランティアの人たちの実際の話を聞くのは、いい体

験になりました。視野を広げて、学習者一人ひとりに目を向けて、どんな学習の場を設けたらいいか考え直したいと思います。

●生活に必要なことと自分を表現したいという二つのことがあることに納得。自分を表現したくなるクラスの雰囲気作りが一番大切だと感じました。英語の学校で知らない人の中で急に What's new?と言われてもどの話題がいいかわからないし、みんなが話したくなるような環境が大切ですね。

●子どもの支援に関わっているので、今まで学んだことを改めて整理し、目の前の子どもに何が必要なのかを考える機会になりました。ただ、子どもの背景が様々であるから、個々の指導の話はできないというのはよくわかるけれど、やはり知りたかったです。

●現場にいとどうしても目先のことにとらわれて、世界レベルで何が起きているかというマクロの視点が失われがちということに気づかされた。日本の家族の形態の変化や生産活動の変化が地球規模での生産活動(者)の移動に係っているという事にあらためて驚かされた。隣の席の人とのディスカッションで先生の投げかけた問いに共同で取り組む作業も、受身でレクチャーを聴いているよりも自発的に取り組む姿勢を持つことができ、とても良かった。

●日本語ボランティアをする中で、学習者の話などからしか得る知識しか持っていませんでしたし、あまり深く考える機会もありませんでした。バックにいろいろな問題があり、つながっているのかと思うと恐ろしい感じもします。人の移動の背景をそこから起こる結果に伴う問題、しっかり勉強したいと思います。自分にも深く関係することが多いのでしっかり考えたいと思います。

●グループワークの内容が楽しく、自分の意見を言い、他の人たちの考えを聞くことによって、視野が開けました。また、長期的で、相手の自立につながる支援というものについて、具体的にネパールの山村を例に、理解を深めることができた。講義の内容も易しく、わかりやすかった。

●「外国人」「日本人」という枠組みではない住民として個々の人権を尊重しながら共に生きていくことの大切さを改めて考えさせられました。「外国人問題」の裏には日本人側の問題があると思います。〇〇人という国籍ではなく、主に地域に住む住民としてお互いに支え合って元気に生きていける地域を目指したいです。外国人だから支援するというのではなく、お互いに支えあう人間関係でありたいと思う。

●言葉とアイデンティティーの確立には密接な関係があることを強く感じた。日本人と結婚した日系人が子供を持つ場合、子供の母語をどうするのか、もし、日本語を母語として選択する場合、継承語教育をどのようにできるのか体制が整っていない。言葉ができないことで生活に関する情報が十分に得られなかったり家族間でコミュニケーションが難しかったり、なかなか難しい問題がたくさんあるようだ。

●具体的な問題が多く身近に感じられ、分かりやすかった。他国(異文化圏)に行った

経験を振り返って、反省することが多かった。今後は、見方、考え方、(異国文化)を更に理解する努力の必要性を痛感した。

●先生の御自身の経験から具体例を挙げながら講義を進めてくださったので、楽しく聞くことができた。また、日本語教室＝学習者のアイデンティティーを改造する場ではない、という言葉は大変印象深かった。

●韓国の多文化共生の現状について、お話がきけてよかったです。日本より政策も対応も進んでいる国からのあらゆるアドバイスを日本の様々な地域で広く共有できることを願います。チェさんの個人的な経験から得た学びは、具体的でとても実感がこもっていて、貴重なお話でした。

●ボランティア活動のあるべき姿を示されて、今後の参考になるところ、大だった。数々の資料の準備、段階的な話の進め方等、実にわかり易く、御本人の御経験も外国人としての日本への見方、考え方が示唆され、コーディネーターとしての心掛け、心構えの学習に多いに参考になった。

●難民と呼ばれる人達、その道を選ばざるを得なかった人達の気持ちが実感として理解しきれていませんでした。が、以前より少しは理解できたと思います。人の立場、状況を知らうとする意識の大切さを改めて感じました。

●地震前は、地域の日本人も外国人も助け合って生活していたということが伝わってきた。ただ、地震後は土地にルーツを持っていない外国人は心細いだろう。また、土地柄、夫が出稼ぎに行っている場合が多い。「泣き場所がない」という言葉が悲しい。もし都市であれば同じ出身国の人たちのコミュニティがあるのにと残念だ。子どもを守る母のたくましさ、つらさが伝わってきた。

●日本人、外国人、物資の支援や援助は平等に行われていても、外国人であるために、地域のサポート、特に心のサポートの問題があることがわかった。被災した人という面では同じでも、またそれぞれにサポートのニーズがあると思った。何かをすぐに解決することはできなくても、一つ一つサポートのつながり、積み重ねが大きな成果に続いていくと感じた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

・受講生は多岐にわたった。地域で長年日本語教授や学習支援のボランティア活動をしている方、区の多文化共生ラウンジや外国人支援窓口、多文化共生支援窓口、交流事業の担当者、コーディネーターとして活動している方などである。また、日本語コーディネーターに興味がある、よく知りたいと考える方々もいた。皆高い問題意識を持って熱心に聴講し、かつ積極的にワークショップに取り組んでいた。

・神奈川県内のほか東京都からも参加者が多かった。愛知県からの参加者や単発的ではあるが長野県からの参加者もあった。この方々は中高一貫校の教員や公立校で外国につながる子どもを教えた経験のある方で、それぞれの支援の立場で直面した課題解

決の糸口をつかもうと、聴講を申し込んできた。

このことから、当講座は、成人を中心とした地域での外国人住民とのかかわりを考えていこうとする方々のほか、地域外国人住民の現在及び将来をよりよいものにできるよう情報や知識を得ようとする方々のニーズに応え得る、適切なものであると評価されたことが分かる。

・本講座ではたびたびワークショップを行い、外国人住民とのそれぞれの関わり方や自身の目指すもの、外国人住民が抱える課題の解決方法などを話し合った。立場の異なる受講生たちなので、一つの問題を多方面にわたる視点から捉えて意見交換ができ、さらには新たなネットワークを作るきっかけにもなった。

この新たに構築されたネットワークを有効に活用することで地域、行政、学校をつなぎ、本講座受講生のいる外国人相談機関に来た高校進学希望者に、わずか来日半年で高校合格通知を手に入れさせることができた。まさに、講座で学んだことが生きた知識であり、研修内容が実践的であったと、高く評価できる。

また、昨年度の受講生である子どもの学習支援団体の主宰者から要請があり、支援者用の研修を行った。その研修参加も広く呼びかけるなどして、できた繋がりを長く広く強くしていく機会を設けている。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今後は、②で述べたような講座の受講生の間で、また、運営側との間で構築されたネットワークを活かして、お互いの日本語支援活動の情報を交換、検討する場や機会を設けたい。特に、子どもの学習支援では、神奈川最大の支援組織「多文化共生教育ネットワークかながわ」や鎌倉の日本語 COSMOS、墨田区のすみだ国際学習センターなどと連携を深め、複数の手と目で支援できるような体制をとっていきたい。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

「外国人指導者とともに学ぶ日本語指導者養成講座」と連携して、第10回講座を開催した。近年数を増している外国につながる年少者への学習支援は、地域と学校や行政が協働しなければ必要な支援がされにくい。そのために、日本語指導者も日本語コーディネーターも興味深く聴講できる内容になるよう緊密に連絡を取り合うネットワークができた。

②研修後の人材活用

多文化共生ラウンジや、外国人支援窓口などの職員が本講座で学んでいたことは、ほかの受講生にも良い刺激となった。この講座を受講することによって得られた知識や技

術、そしてネットワークをそれぞれの現場で活かせるよう、また、新たな活動の場や機会が得られるよう支援していきたい。

(12) 今後の課題

現代社会がもつ様々な問題(格差や差別)は、そのまま地域の外国人にもより重い負担となって、投げかけられている。また、外国につながる子どもたちも、日本語で学習し、日本で生活していくうえで、自分やその家族だけでは解決し得ない問題を抱えている。これらの問題は個別具体的であり、問題解決にあたるには、外国人と地域をつなぐ日本語コーディネーターひとりひとりが、情報の共有化や定期的な研修によって、その対応策を複眼的に考えていかなければならない。この必要性が今回の研修を通して認識できたので、今後はこのような研修の機会をさらに充実させ、外国人を地域や行政機関とつなぐ現場の改善が望まれる。

その一方で、行政の窓口となる人間もまた、受身型でなく能動的に問題解決に当たるための知識や連携方法を学べるような研修が必要である。本事業がその必要を満たすものとするが、ニーズに沿った研修を今後も企画していきたいと考える。